

新型コロナウイルスは今でも危険？ 感染後の死亡は3%近いとの論文が

2/16 日刊ゲンダイ



【医者も知らない医学の新常識】

一時は毎日のようにニュースを賑わした新型コロナウイルス感染症（COVID-19）ですが、最近ではあまりその名前を報道などで聞く機会はありません。むしろインフルエンザの感染拡大の方が、ニュースとなっています。確かにインフルエンザと比べると少ないのですが、実際には新型コロナも同時に流行が見られています。

パンデミックの時期には、インフルエンザより症状が重く、死亡率も高かった新型コロナウイルス感染症ですが、その後軽症化していると報告されています。

それでは、軽症化した新型コロナと、季節性インフルエンザのどちらの感染が、より重症になりやすいのでしょうか？

うか？

今年の米国医師会関連の医学誌に、冬に高齢者に流行するウイルス感染症の重症度を比較した論文が掲載されています。

対象はアメリカの退役軍人で、中高年の男性が主体です。2022年から23年の冬と、23年から24年の冬の、2つのシーズンを比較して検証したところ、新型コロナの軽症化が想定される23年から24年の時期でも、感染後に死亡するリスクは、インフルエンザより新型コロナの方が高くなっていました。具体的には3%近い人が新型コロナ感染の後で死亡していたのです。

軽症の患者さんが多く、今では普通の風邪のように捉えられがちな新型コロナウイルス感染症ですが、中高年はその重症化にまだ注意する必要があります。

（石原藤樹／「北品川藤クリニック」院長）

血液型に関する病気 (4) 新型コロナは重症化しにくい血液型は？

2024/12/13 日刊ゲンダイ

血液型は、新型コロナの感染リスクだけでなく、重症化のリスクにも関係しています。O型の人は、他の血液型と比べて約3割も重症化しにくいのです。

一方、A型は最も重症化しやすくなっています。AB型の重症化リスクは、A型と同程度とする論文と、少し低いという論文があります。またA型は、O型と比べて死亡率も高いという論文もあります。

日本の複数の大学と病院が共同で行った研究によると、感染リスクはA型とAB型が高くなっています。またAB型が最も重症化リスクが高く、O型の1.84倍だったとしています。

なぜA型やAB型が重症化しやすいのかについて、いくつかの仮説が立てられていますが、これらの血液型は血が固まりやすく、O型は固まりにくいことが、大きな要因のひとつと考えられています。

新型コロナの死者の多くは「多臓器不全」で亡くなっています。これは血管内にできた微小な血栓が、毛細血管に詰まることによって起こります。とくに毛細血管が多い肺、肝臓、腎臓、脳、心臓などは、酸素不足や栄養不足に陥って機能が低下し、最終的に死に至るのです。しかし新型コロナに感染すると、なぜ微小血栓ができやすくなるのかは、まだよく分かっていません。

ただ血栓のできやすさは、血液型によって異なります。この連載の1回目で話したように、O型の方は、血液凝固因子のうち「フォン・ヴィレブランド因子」と「第8因子」の2つが他の血液型よりかなり薄くなっています。そのため血栓ができにくく、脳梗塞・心筋梗塞・肺塞栓症（エコノミークラス症候群）などのリスクが他の血液型よりも低くなっているのです。

それと同様の理由で、O型は新型コロナにかかっても、他の血液型よりも微小血栓ができにくいため、重症化しにくいと考えられるのです。

逆にA型とAB型は血が固まりやすく、ケガをしても出血が止まりやすいのですが、脳梗塞や心筋梗塞のリスクが、O型の1.2~1.3倍ほど高くなっています。血が固まりやすいことが、新型コロナでA型やAB型が重症化しやすい理由なのかもしれません。 =おわり